

長がまとめる方法で、それぞれ「みんなで力を合わせて行動する」など、目標を立てた。

全校児童でつくる異学年の交流グループ「ひよどり班」の取り組みで、自然学習会実行委員の六年高橋和樹君（こ）は「自分たちで決めるのはたいへんだけど、低学年から高学年までみんなが楽しめるようにがんばりたい」と話す。
校歌の歌詞でも「笑顔明

の作詞に杉野市定男氏、作曲は中原都男氏。



多くのことを学んだり返る。
地域住民の小学校改築を実現した。児童数は減少傾向だが行事への参加者は増かりで、児童たちも囲は地域住民にもいるという。
↑自然学習会について出し合った児童たち

障害者の自立と 社会参画拠点に

舞鶴市障害者総合支援センターが五日、余部上にオープンする。これまで知的障害児・者や身体障害など種別別に、市内四カ所にあった各支援センターの機能を統合し、一元的な施策の推進を目指す。四日には関係者による開所式があった。

障害が重複する人への便宜を図るとともに、本

舞鶴市総合支援センター

きょうオープン

4カ所の施設 機能を一元化

館（三階建て、延べ約五百四十平方メートル）を転活用。知的障害児・者と聴覚言語障害者の支援センターが移転して入り、身体障

年度から全国的に導入された「支援費制度」のスムーズな運用に向け、市が設置した。
施設は、旧社会福祉会

害者と精神障害者については今のセンターを残し、職員が週二回、総合センターを巡回する形をとる。

市と府が、種別別に四社会福祉法人に運営委託。在宅福祉サービスの利用援助や調整、生活相談などを担う。館内には、事務所のほか作業室や日常生活訓練室なども整備



開所式には、行政や福祉施設の関係者ら約八十人が出席。江守光起市長は「（センターを拠点として）障害のある人たちの自立支援、社会参画に向け、一層努力していきたい」とあいさつした。
開館は平日の午前九時～午後五時。問い合わせは総合支援センター 0773(64)3766。
5日にオープンする市障害者総合支援センター（舞鶴市余部上）

高野川河川敷の草刈る



西舞鶴高生徒（ごみもみ）

ふるさとこの環境美化を進めようと、西舞鶴高の生徒たちが四日、学校近くを流れる高野川の堤防や河川敷の草刈りなどをした。

ふるさと

あす記念通水 丹後町が、中心部の間 丹後町が、中心部の間 丹後町が、中心部の間

丹後町が、中心部の間
丹後町が、中心部の間
丹後町が、中心部の間